

本照寺・外観 本照寺・縁起

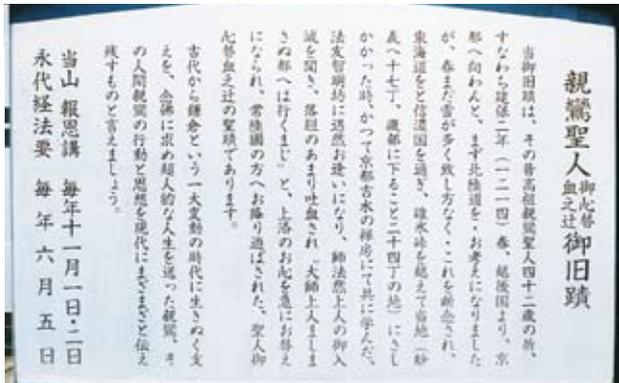
群馬県安中市松井田町松井田



本照寺略縁起

そもそも当山は、高祖親鸞聖人が師法然上人の罪にご連座し給い、越後の国国府に御流罪。建暦元年(1221)冬二月赦免の沙汰ありしが、信蓮房御幼少のためなりしや、それより丸二年の間、尚越後の国にとどまり遊ばされ、健保二年(1214)春、師法然上人恋しさのあまり上洛せんとて、まずは北陸道を考え給いしが雪深く往来もなり難く、東海道より上洛し給わんとて信濃路を選び給い信濃善光寺へ御参詣の後、碓氷峠を越え坂本、横川、五科と過せしに、右に妙義の奇勝左に小倉の丘を眺めやり松井田の宿へと入り来たりぬ。不思議なる縁にや。その昔、京都吉水の禅房にて寝食共に念仏修行にあけくれし、法友智明房にぞ打ち逢り。聖人あまりの懐かしさにふし喜び、しばし手をにぎりしめなん。ややありて、聖人、師法然上人の安否を問たるに、智明房袖をぬぐうと見えしが「大師上人は建暦二年の正月二十五日、頭北面西右脇にて浄土に還歸し」と、聖人大いに驚き啼泣なされ給い、お嘆きのあまり路肩に吐血遊ばせりとなん。

この智明房との出会いから、聖人は上洛の志を替えて、上州佐貫を過ぎ常陸の国へ渡られ遊ばされたのであります。それ以後、妙義山へ十七丁、磯部へ下ること二十四丁の地、小倉山の麓に血の辻ありと・・・・・・・・



後、安永二年、当山開基釈智流法師は旅に旅を重ね、ようよう当地をさがしあてられ一宇を建立、不思議なる縁により、この地に伝わった御本尊阿弥陀仏(室町期作)と聖人御親筆一帰命盡十方无碍光如来の御命号を安置御奉安のうえ、現在に至っております。

親鸞聖人は、長野県の境を越えられて、現在の碓氷峠ではなく、別な最も低い峠を選んで上野の国へと入られた。何故かと言えば、それは小さなお子達と一緒にであるからであり、恵信尼様とも一緒にあるからである。

上野の国(群馬県)に入り、現在の松井田町に至ると、不思議なことに法友智明房に出会い、「大師上人(法然)は建暦二年正月二十五日に浄土に還歸せし」と聞き、嘆きのあまり啼泣され、血の涙の様子であるとの伝承より、「血の辻」の伝説となったのである。